

● 広報

おぐに



2019

3

No.773

— ワカサギとの駆け引き —

近年、小国の冬の楽しみ方のひとつになりつつあるワカサギ釣り。2月9日には小国わかさぎ会（佐藤道信会長）によるワカサギ釣り体験会が、白い森おぐに湖（横川ダム湖）で行われた。小さな獲物を相手に、エサに食らいつく瞬間を逃すまいと竿先を見る目は真剣そのもの。これから吊り上げる獲物は果たして…。

町内産木材の利活用と木育の推進 ～産学官連携の取り組みと展望～



▲今年度3歳を迎える子どもたちに贈呈する家具「デイク」

町では、町内産木材の利活用と各世代における木育などを推進することを目的に、今年度3歳を迎える子どもに町内産木材を使った家具を贈呈することとしています。これは、国の地方創生推進交付金を活用し、白い森ブランド木工品として白い森木工館に製作委託しているものです。木育という視点に立って、町内にある木材を原材料として、デザインを学ぶ者、家具を制作する者、活用する者が知恵を出し合い、連携しながら取り組む新しいスタイルの事業です。今月は、この事業の目的や背景とともに、これまでの東北芸術工科大学と㈱オカムラ、町民有志による取り組みや今後の展望などについて紹介します。

ご案内

平成30年度 3歳児のための ファーストファニチャー贈呈式

今年度3歳になるお子さまに、町からファーストファニチャーをお贈りします。贈呈式を次のとおり行いますので対象のかたはご参加いただきますようお願いいたします。

■日 時

平成31年3月24日(日)10:30～

■場 所

おぐに開発総合センター 2階 集会室

■対 象

今年度3歳になる児童（平成27年4月2日～平成28年4月1日までに生まれたかた）

■そ の 他

贈呈式を欠席された場合の家具の引渡については、白い森木工館（五味沢）となりますのでご了承ください。

■問 合 先

産業振興課白い森ブランド戦略室（☎87-0821）へ

今年度3歳を迎える子どもに 町内産木材を使った家具を贈呈

町では、本町の木材を利活用した木工産業の振興や小さい頃から町内産木材とふれあうことによる木工製品や地元への愛着を醸成することを目的として、今年度3歳を迎える子どもに家具を贈呈することを予定しています。

木育とは、子どもをはじめとする全世代のかたがたが、木とふれあい、木に学び、木と生きることを学ぶ活動です。子どもの頃から身近にある木の家具や家とふれあい、囲まれて育っていくこと。さらに森を散策してみたり、木

で何かを作ってみたりすること、人と森や木との関わりや、昔からの木の文化や地域の大切ななどを主体的に考えられる豊かな心を育んでいくことです。

贈呈する家具は、「Deiku（デイク）」と名付けられた家具です。これは、昨年度東北芸術工科大学の学生が本町をフィールドにして「3歳児のためのファーストファニチャー（はじめて手にする家具）」というテーマで行ったプロダクトデザイン演習の中で提案のあった作品です。

学生から数多くの家具の提案がありました。各種発表会や町内で展示した際に投票を行った結果、この作品が高評価を得たことから、この作品をベースに、東北芸術工科大学と（株）オカムラ（オフィス家具メーカー）、白い森木工館がデザインや機能性、耐久性などさまざまな観点から、さらに磨きをかけたものを贈

呈することとしています。

贈呈する家具（2ページの写真）は、自分の空間を持つことで、子どもの創造力を育てることにつながるから、「子どもの創造性を育てる家具」として、自分だけの空間で絵を描いたり、大切なおもちゃを飾ったりすることで、子どもの創造性を引き出してくれる家具として制作されました。

今回この製品の制作を担当した白い森木工館の渡部顕治



▲木工館の機器の使い方を説明する渡部顕治さん（右）

さん（東原）は、「現在制作している家具は、一度学生が試作していますが、それを量産化するということで、材料となる木をいかに効率よく使用できるかを考えなくてはいけないため、数多くの打ち合わせをしながら準備を進めてきました。また、私自身も家具等を量産した経験がなかったため、材料が足りるのかどうか不安になりながら大変苦労はしたのですが、周りのサポートもあり楽しみながら制作できました。現在木工館

は、使用されていない機械、スペースが多くあるため、お客様に手にとって使っていただけの製品づくりや、私自身家具作りを経験したこともあるため、そうした経験を生かしながら、ワークショップで使えるキットの制作・販売なども行えればと思います。私が、木工館で楽しくものづくりをしている姿を少しずつPRしながら、ものづくりが楽しいことだということを広めていければと思っています。」と話してくださいました。

事業のきっかけは、町民有志の問題意識 小国を舞台に学生が家具デザイン

この事業が始まるきっかけは、平成26年度までさかのぼります。

東北芸術工科大学デザイン工学部プロダクトデザイン学科では、2年次に「プロダクトデザイン演習」が選択科目にあります。これは、これま

で身につけたデザイン技術等を応用し、実践的な製品制作を行うことで、家具やインテリアなどのデザイン工程を学ぶことを目的としています。これに㈱オカムラが、次代の家具デザイナーの育成・指導の観点から、平成26年9月か

らデザイナーなどを講師として派遣するという形での、産学連携の取り組みを展開していました。

一方、本町の五味沢地区には山から切り出した木を加工してお椀などの生活用具を生産するという、いわゆる「木地文化」があり、これを受け継ぎ伝えていく場として、平成6年に「白い森木工館」を町が整備しました。

木工館では、木工体験や木工品の販売などを行っていますが、現状の利活用状況と本町の豊富な森林資源が有効に活用されていない現状に問題意識を持った町民有志が、東北芸術工科大学卒業生から産学連携の取り組みを紹介され、その演習の場として小国町を提案したところ了承され、小

国町の木工館の利用や町内産木材の利活用などをテーマにした取り組みが始まったのです。

こうして平成27年度から東北芸術工科大学のプロダクトデザイン演習が小国町をフィールドにして実施されるようになりました。平成28年度は役場ロビーと白い森木工館を



▲マタギの案内でフィールドワークを行う（針生平）

特集 町内産木材の利活用と木育の推進～産学官連携の取り組みと展望～



▲平成28年度に東北芸術工科大学の学生がデザインし、翌年(株)オカムラが製作した家具

活性化するための家具「パブリックファニチャー（公共施設の家具）」を、平成29年度は「3歳児のためのファーストファニチャー」を、演習のテーマにしてみました。

演習では、五味沢地区のマタギの案内で針生平（はんなりだいら）周辺のブナ森を散策しながら、五味沢地区の林地師の歴史や自然生態系の話などから木地文化が生まれた背景などを学ぶほか、それぞれのテーマに応じて、家具をデザインするにあたり現地調

査などを行います。

その後、大学内で学生同士がさまざまな検討を行い、学生一人ひとりが家具をデザインし、指導教員や(株)オカムラのデザイナーから指導・助言を得たうえで試作した家具を大学内および小国町で披露・提案してきました。

平成29年度には前年度に学生が提案した家具を(株)オカムラが制作し、これまでの取り組みをさまざまな形で目に見えるようにするため、役場庁舎などで展示しました。

町民を巻き込んだワークショップも開催 そして、産学官連携協定の締結に

さらに、この取り組みは実際に使う人たちからの意見を取り入れるため、町民のかたにも参加してもらい、さまざまなワークショップも開催されてきました。

初めて開催された平成28年6月には、前年度に学生が提案した家具を町民のかたがたと一緒にさらに磨きをかけるとともに、学生や関係者と町民の交流を図るための「家具を考えるワークショップ」が開催されています。

さらに、教育委員会主管の放課後子ども教室の中で、学生が提案した「5年生の図工の時間につくるファーストファニチャー」を実際につくるワークショップや、角材を使った椅子づくりのワークショップが開催されるなど、多くの町民のかたがたを巻き込んだ取り組みが展開されてきま



▲小国の角材を使った椅子づくりワークショップ（H29.7木工館）

した。

こうしたこれまでの取り組みを踏まえながら、この関係性をより発展させ、町内産木材の利活用や木育等を推進するため、東北芸術工科大学（中山ダイスケ学長）とオフィス家具メーカーの株式会社オカムラ（中村雅行代表取締役社長）と町では、町内産木材の

特集 町内産木材の利活用と木育の推進～産学官連携の取り組みと展望～



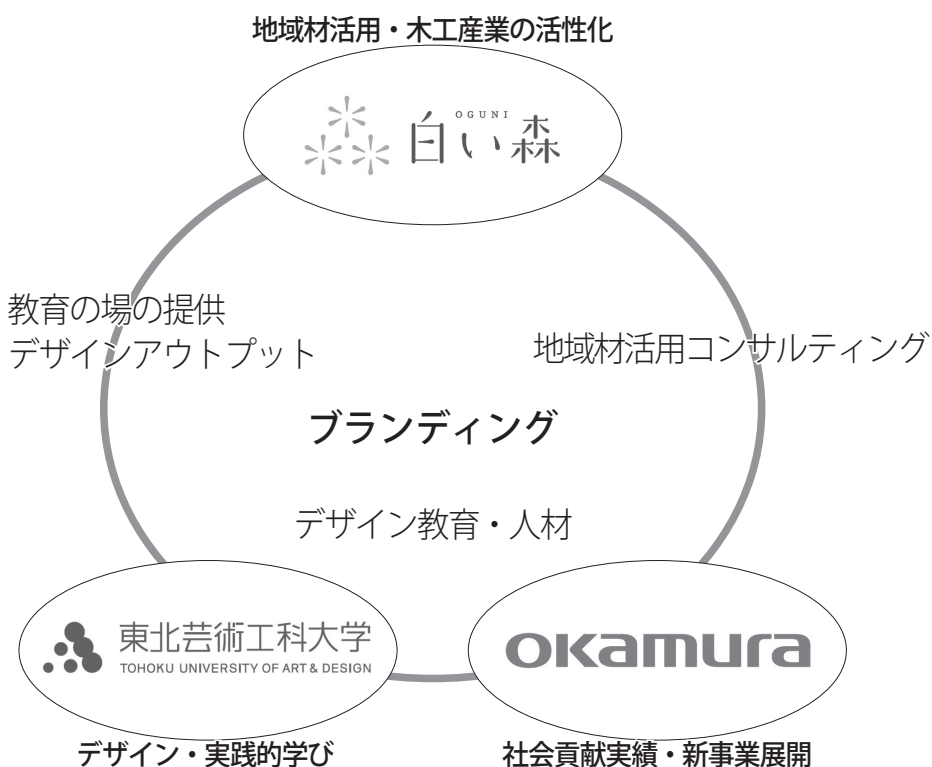
▲産学官連携協定締結式の様子
(左から岩下博樹顧問、仁科町長、中山ダイスケ学長)

利活用を推進するため昨年7月6日に、連携協定を締結しました。

この連携協定では、本町の木材と白い森木工館を中心とした加工施設等を活用した製品の企画、研究開発、制作販

売に関するものと、三者が有する資源をそれぞれに有効活用し、連携・協力することで木育をはじめ、木材との積極的な関わりを推進することとされています。

協定内容のイメージ



実践的デザインの学びの場としての小国の自然

プロダクトデザイン演習を担当されている東北芸術工科大学の藤田寿人准教授は、「家具デザインの演習は3年次からのコース選択で、デザイン

プロセスよりも制作に軸を置いていましたが、3年次のコース選択を前に2年次に学ぶことができるよう、平成26年度から家具デザインの演習を



ます。」と話してくださいました。



り新しい何かが動き出したり
：とても幸せでワクワクし
てきます。木を通じ町の皆さ
んの笑顔が見られること、町
の皆さんが町の木に興味を持
ち、木の文化が再び継承され
ていくこと、木工産業により
町の経済がより豊かに活性化
し、木工の町としても観光資

源になれること。東北芸術工科大学と(株)オカムラの企画・デザイン・技術と小国町の力を合わせ、町の木を町で加工し、魅力ある家具や小物を生産、ひいては町外にも販売できることを目指しています。」と話してくださいました。

で制作・販売ができる仕組みを作っていくことで、町産木材の利活用につながるとともに、ブナ森の新たな利用価値の創造を図っていきます。そのことによって、町内における木工や家具作りなどの雇用創出・産業の活性化に寄与できるのではないだろうか。

町民有志の問題意識から始まったこの流れを、町内でこれまで培われてきた本町独特の文化と融合させて、産学官の連携による新たなまちづくりを展開していきます。



2月7日
小国町役場

果敢な行動、人命救う ～西置賜行政組合感謝状贈呈式～



西置賜行政組合感謝状贈呈式が、2月7日、小国町役場内で行われ、建物火災の通報、人命救助、初期消火を行った安達徳一さん（岩井沢）と安達瑞稀さん（岩井沢）、高橋一樹さん（緑町）の3人に感謝状が贈られました。

これは、昨年11月15日の夕方に岩井沢地内で発生した建物火災の際、近くを通りかかった高橋さんがすぐさま通報し、安達徳一さんと安達瑞樹さんが建物内にいた高齢者を避難誘導するとともに、適切な初期消火活動を実施したもので、火災の早期消火・人命救助に尽力されました。

2月10日
スポーツ公園

雪上の遊びを満喫 ～おぐにスノートレック～



スノーモービルの乗車体験などができるおぐにスノートレックが、2月10日、総合スポーツ公園で開催され、町内外から家族連れなど多くのかたが来場しました。これは、町内のスノーモービル愛好家で組織する「ちょすべ!!（佐藤一也代表）」の会員が協力し、町商工会・町商工会青年部が主催したものです。

来場したかたがたは、普段なかなか乗ることのできないスノーモービルやそれに引かれるバナナボートに乗って雪国だからできる冬の遊びを楽しんでいました。

1月26日
総合センター

さらなる飛躍に期待 ～平成30年度小国町体育協会表彰式～

平成30年度小国町体育協会表彰式が、1月26日、おぐに開発総合センターで開催され受賞者やその家族など関係者約200人が出席しました。

今年度は、96人が全国大会や東北大会、県大会などの各種大会で優勝や上位入賞する活躍をされ、それぞれの成績等に応じて殊勲賞や栄光賞、奨励賞などが贈られました。受賞者のかたがたの今後のさらなる活躍が期待されます。



1月27日
総合センター

狩猟文化の発信、継承 ～台湾パイワン族サキヌ氏講演会～

台湾の少数民族の一つ、パイワン族の猟師で、「猟人学校」という文化継承の取り組みをされているアーロンロン・サキヌ氏の講演会が、1月27日、おぐに開発総合センターで開催され、町猟友会会員など約30人が聴講しました。

これは、国立民族学博物館外来研究員の蛭原一平さん（幸町）が研究の一環として主催したものです。「狩猟という『文化』を伝え、継ぐ」と題し、サキヌ氏による講演が行われたほか、狩猟文化研究を専門とする東北芸術工科大学教授の田口洋美氏が国内外の狩猟文化の継承問題や野生動物保護管理における伝統的狩猟者の役割についてコメントがなされました。

聴講者は、サキヌ氏の狩猟に対する考え方やその文化を次代につないでいこうとする想いに聞き入っていました。

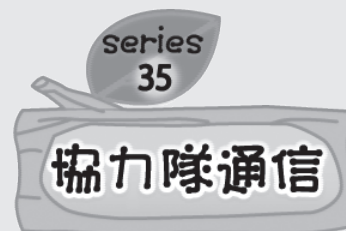


3月になりました。旧あさひ保育園では今年も2月18日から3週にわたる「第3回北部地区輪投げ王座決定戦」が開催されています。やればやるほど奥の深い輪投げですが、大会前には練習を行う姿に皆さんの意気込みを感じます。

さて、今年度をもつて協力隊を退任させていただくことになりました。

緑のふるさと協力隊として1年、その後地域おこし協力隊として2年の3年間、小国町でお世話になりました。小国町に初めて来た3年前の4月、灰色の

「ありがとう
ございました」



地域おこし協力隊

のぐち たつひこ
野口 達光

曇り空に少しの不安を感じましたが、温かい人、おいしい食べ物、時に厳しいけれど美しい雄大な自然の中で、都会とは違った素敵な生活を過ごすことができました。雪との戦い、熊狩りの厳しさ、歌舞伎役者の難しさ、消防団での全力の転倒、小国町縦断など、さまざまなことすべてが良い経験となりました。

4月からは実家のある埼玉に戻り、新たな目標に向かって進んでいきます。また遊びに来ますので、どうか私のことを忘れないでください。ありがとうございました。



▲屋根の雪掘り中

技を^な絢う

その⑩

人と道具の物語

かつての小国の暮らしには、稲ワラやスゲ、茅、樹皮、蔓といった身の周りの植物から様々な生活道具を作り出す「技」があふれていました。とりわけ、雪で閉ざされがちな冬場は、ワラ細工をはじめ屋内でのモノづくりが主な仕事でした。今ではほとんどなされなくなったムシロ（筵）織りもその一つです。ビニールシートなどなかった時代、収穫物を干したり、保管したりするときの敷物として、ムシロは農家にとって欠かすことのできない生活用具でした。とくに春のゼンマイ干しにはとても良く、その生産が盛んであった頃は各家で多くのムシロが織られていたのです。

この時、重要な役割を果たすのがヒ（杼）などと呼ばれる道具です。この取っ手を上げたり下げたりすることで縦紐の方向が前後に入れ変わり、編みこんでいくことができるのです。このヒを操作する人と、サンゴなどと呼ばれる道具で横糸を縦紐の間に通していく人との二人一組で通常、作業はおこなわれます。ムシロ織りをする家にはたいてい、この織機と道具があつたといい、ゴザもそれらを用いて織られていました。



▲ムシロ

ときには織り方を始め、30歳過ぎ頃までムシロやゴザ織りをしていたそうです。やめてからすでに半世紀以上が経っています。が、ついこの間のことのように生き生きと、その方法について教えてくれました。

「ゴザはスゲで織ったな。お正月前に畳敷き換えしねばなんねえから、その前に毎年、新しいゴザを織ってよ。夏、土用のうちにスゲを刈つといて干して、それ使ったもんだ。ムシロはワラで。それ（ムシロ織り）も正月前にはみな終わらせて。お正月過ぎれば今度（スゲ）笠縫いしねえばなんねえから。ここらでは、たいがいの家で（笠を）つくってたな。たくさん縫う人は、200も



▲高橋 モリ氏

300もな。それを小国まで売りに、背負って行つてたんだ。

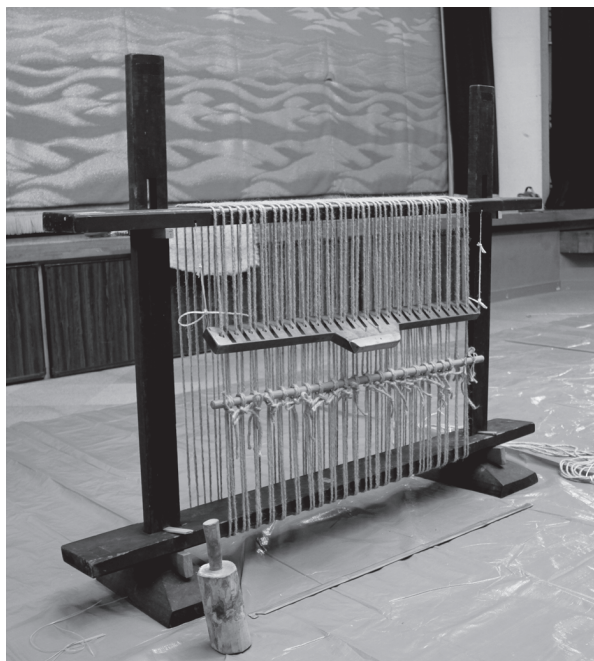
ムシロのタテ（縦紐）は、今みたいな細縄なんてねえからワラを絢（な）った縄でしたもんだ。稲

の節あるべ、そこから先を抜いて、真っ直ぐなのを（ワラ鎚で）叩いて柔らかくして。それを絢ったんだ。オランちは、出稼ぎで男衆いねかったからワラ打（ぶ）つのもオレがした。

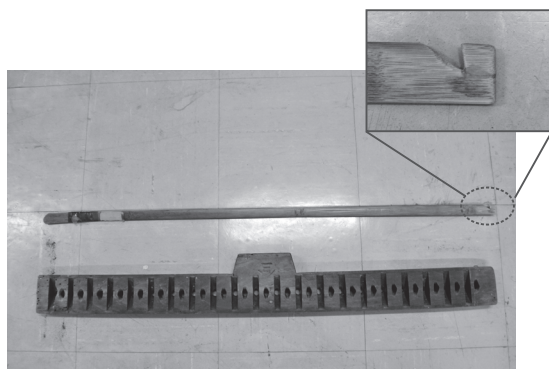
織るのもお姑さんと二人で。ドンドンと（ヒを下に）押さえるのに力要つから、たいていヒ取り（ヒを操作すること）は男がするもんだ。だとも、うちで、お姑さんとやるときは、それもオレしたな。もつともよ、



▲笠縫いをする高橋さん



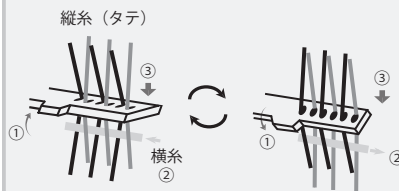
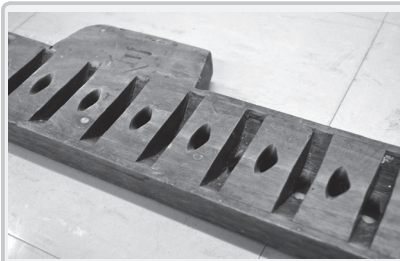
▲タテをセットした織機
(平成26年地域学講座のときのもの)



▲サンゴ (上) とヒ (下)
サンゴの先には拡大写真のようにワラを
引っかける取っ掛かりがつけられている。
(白い森くらしの資料館所蔵)

それから婆さま衆が何枚にも薄く剥いて、細く裂いて。そうして取ったのを紡錘(つつむ)にかけて撚(よ)って糸こしらえたんだぜ。
ゴザ織る

その地に根付く知恵と技を駆使して何でも自分たちで作り、確たる暮らしを築いていく。そのような活力あふれる先人たちの生き方は、それら知識や技術とともにこれからも大切に伝え、継いでいくべきものであるに違いありません。

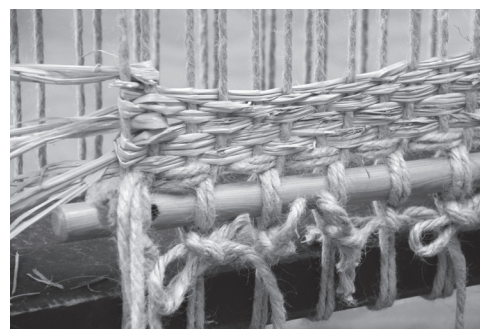


◀ヒの拡大写真

ヒは一つずつ交互に、上、下、上、下という具合にタテを通す穴の場所を変えている。そのため、左図のように、取っ手を上げ下げし、ヒの角度を変えることで、隣り合うタテを交互に前後へ曲げることができるのである。取っ手を上げ下げし(①)、できた隙間に横糸(ワラ)を通し(②)たあと、ヒを下げ(③)、横糸をしっかり下に押さえて織っていく。

難しいのはサンゴ刺しのほうだ。ずつつと端まできれいに(タテの)間を通してやんねえとなんねえから。
だいたい1日、晩げもずつとして1枚半つて言ったもんだ。昼間のうち1枚織って、夜半分織って。オラんちでは、ゴザは毎年8枚。ムシロは12、3枚ぐらいは織ってたな。それを正月までには終わらせなんねばならなかったから、忙しかった。」

今のように市販の紐など手に入らなかつた当時、スゲゴザを織るときは縦紐は、マダ(標準和名シナノキ)の皮から繊維を取って糸につむぎ作っていたそうです。
「たいていの家にマダの木、株になったのがあったな。その大きな枝切ってきて、皮剥いで。外側の厚い皮は取って、残りをぐるぐると巻いてよ。それを大きな鍋で灰汁混ぜて煮るんだ。すると柔らかくなるから。そして今度、池に入れて灰汁取って。



▲耳かき

タテの間を横から通したワラの端を、一番外の縦紐に1回巻きつける。これは「耳かき」と呼ばれ、このことではみ出た部分を切って端をきれいにそろえる。

平成31年 小国町議会臨時会

平成31年小国町議会臨時会が、2月1日に開催され、平成30年度一般会計補正予算などが審議され、原案のとおり可決されました。

専決処分承認

今冬は、12月中旬のまとまった降雪の後は、落ち着いた天候が続きましたが、年末年始には一転して強い冬型の気圧配置が続き、町内各所で連日降雪がありました。特に年明けの寒波の影響で降雪が続き、1月9日時点の積雪量が、豪雪となった昨年度の同時期に迫りました。この短期間における集中豪雪に対し、道路の路面状況の確保や雪崩の未然防止対策を講じてきましたが、引き続き一定程度の降雪が見込まれることから、町民生活の維持と安全確保を図るため、1月21日に行った除排雪経費5000万円を追加する補正予算の専決処分が承認されました。

小国町議会議員選挙立候補予定者説明会 および出納責任者説明会

平成31年4月21日執行予定の小国町議会議員選挙における説明会を行います。

立候補を予定されているかたや出納責任者となるかた、またはその代理のかたは出席してください。

- 日時 3月20日(水)午後2時～
- 場所 小国町役場4階大会議室
- 問合先 小国町選挙管理委員会事務局（総務企画課内）
(☎62-2112)へ

一般会計に

8000万円を追加

一般会計では、専決処分以降も断続的に続いた降雪に伴い不足が見込まれる町道除排雪経費を追加しました。これにより、補正後の同会計予算総額は65億9498万8千円となりました。

灯油購入費の助成について

昨年12月の隣組回覧でご案内しておりますが、町では灯油購入費の助成を行っています。申請期限は平成31年3月31日までとなっていますので、お済みでないかたは早めに申請を行ってください。対象は平成30年度の町民税非課税世帯であり、かつ65歳以上の高齢者、障害者、母子・父子、在宅系施設利用者世帯になります。詳しくは、健康福祉課までお問い合わせください。

■助成額

上限5,000円（1世帯あたり）

■申請場所 小国町健康管理センター

■持参するもの

- ①申請者本人の印鑑
- ②灯油を購入したことを確認できる書類（領収書など）
- ③助成金の指定振込口座を確認できる通帳

■問合先 健康福祉課（☎61-1000）へ

保護司は人の立ち直りを支えています

保護司は、罪を犯した人が地域に戻り、社会の一員として生きていくための立ち直りを支え、再犯を防ぐとともに地域の「犯罪や非行」を防止する「更生保護」の活動を行っています。昨年12月に新たに高橋潤一さん（叶水）と佐藤美奈子さん（小国小坂町）が選任され、本町では次の8人のかたが保護司として活動しています。また、関係機関・団体と協働し、町内の学校訪問や町全域の広域パトロールのほか、標語や作文の募集、非行相談など、さまざまな活動を展開しています。

住 所	氏 名
小国小坂町	加 藤 美恵子
松 岡	後 藤 秀 一
越 中 里	原 田 憲一郎
幸 町	益 田 則 雄
緑 町	佐 藤 修 治
舟 渡	塩 川 徹 雄
叶 水	高 橋 潤 一
小国小坂町	佐 藤 美奈子

※保護司とは、保護司法に基づき法務大臣から委嘱を受けた非常勤の国家公務員です。

あなたのチャレンジを応援します！ 白い森おぐにビジネスプランコンテスト

2月16日(土)、おぐに開発総合センターで白い森ビジネスプランコンテストのプレゼンテーションイベントを開催しました。

ビジネスプランコンテストは、町として初の試みであり、起業創業部門にエントリーしたかたには、事前に起業セミナーも受講いただき、専門家のアドバイスのもと小国の地域資源を活用した新しいビジネスプランを練り上げていただきました。

イベント当日は、参加者それぞれが想いの込めったプレゼンテーションを繰り広げ、観客も熱心に聞き入っていました。

小国町の魅力ある地域資源を上手く活用して「みんなで稼ぐ」ためには、既存ビジネスの発展はもちろん、新しいビジネスやアイデアを生みだし、それを実現していくことも必要です。

今後も町としてはさまざまな取り組みを通して、白い森おぐにらしい起業・創業の動きが活発となるよう応援していきます。コンテストの結果は次のとおりです。



▲各部門の受賞者のかたがた
左から山口碧さん、塚原基弘さん、本間義信さん

■起業創業部門

○最優秀賞

「産学官金福連携で新技術活用型の起業」
白い森林の精 本間義信さん

○優秀賞

「産学官金福連携で国産漆再生販売」
国産漆の再生会 塚原基弘さん

■起業アイデア部門

○起業アイデア賞

「あおい社長の你好で溢れる白い森★」
小国高校 山口碧さん

■両部門共通

○オーディエンス賞

「あおい社長の你好で溢れる白い森★」
小国高校 山口碧さん

<ほかのプレゼン参加者>

■起業創業部門

村上 裕志 さん 目指せ世界大会参戦！プログラミング教室
山口 ひとみさん 高きびでつなぐ小国PRプロジェクト
吉田 悠斗 さん オーナー制わらび山

■起業アイデア部門

中嶋 康太 さん 白い森・森林セラピー体験ビジネス
田丸 さくらさん 白い森インスタ映えカフェ #Oguni
小泉 勇輔 さん 「白い森」のNagaokaブランド
河合 武 さん 空き家から始める民泊事業
粟田 大貴 さん 小国高校ブランド化計画
瀬賀 一輝 さん 夢と未来の創造車



平成31年3月1日から やまがた子育て応援パスポート が変わります！

- 変更点** ①交付対象を「小学校6年生までの子どもまたは妊婦のいる家庭」から「18歳未満の子どもまたは妊婦のいる家庭」に拡大します。②紙カードから電子画像に変わります。
- 電子画像について** 3月1日以降、県ホームページから専用の申請フォームにアクセスし、スマートフォンに保存または印刷して利用してください。(パスワード入力が必要です。パスワードは対象者に健康福祉課で配布するチラシに記載してあります。)
- 電子画像が利用できない場合**
紙のパスポートを配布していますので、健康福祉課(☎61-1000)にお問い合わせください。
- その他** 詳細は県ホームページをご覧ください。
- 問合せ** 山形県子育て支援課(☎023-630-3345)へ

小国町消防団員募集中！

あなたのちからで救われる人がいます。地域や家族、かけがえのないものを守りたいという思いを消防団に入団し形にしてみませんか。

消防団は地域の消防防災のリーダーとしてその地域に密着し、住民の安心安全を守るという重要な役割を担っています。会社員、自営業のかた、主婦のかた、学生のかたなど、職種を問わず入団可能です。不明な点や詳細は担当までお問い合わせください。

- 問合せ先** 町民税務課町民生活担当(☎62-2260)または消防署小国分署(☎62-2154)へ

置賜定住自立圏共生ビジョン(案)への意見を募集します

置賜圏域の将来像や、その実現に向けて圏域の市町が連携して推進する具体的な取組内容をまとめた「置賜定住自立圏共生ビジョン」について、皆様のご意見を募集します。

- 案件** 置賜定住自立圏共生ビジョン(案)
- 計画(案)の閲覧方法** 米沢市ホームページ(<http://www.city.yonezawa.yamagata.jp>)または小国町役場総務企画課にて閲覧できます。
- 募集期間** 平成31年2月20日(水)～3月11日(月)
- 提出方法** 任意の様式に、ご意見、住所、氏名、電話番号を記入の上、郵送かFAX、電子メール、電子申請で提出先へお送りください。直接ご持参いただいても結構です。
- 提出先** 米沢市役所総合政策課(米沢市金池五丁目2番25号)
FAX0238-24-4540 電子メールseisaku-ka@city.yonezawa.yamagata.jp
- 問合せ先** 米沢市総合政策課(☎0238-22-5111 内線2802)



白沼ふくしの里推進協議会(鈴木幸生会長)で、地域内の行事等の連絡を行うために使用するコミュニケーション連絡用放送設備を整備しました。

これは、自治宝くじの社会貢献広報事業費を活用して整備したものです。鈴木会長は「今回、地域内に放送設備を整備することにより、緊急の連絡などを一斉にお知らせできるのは大変ありがたいです。」と話してくださいました。

自治宝くじ
コミュニティ助成事業
白沼ふくしの里推進協議会で
連絡用放送設備を整備

平成30年度 山形県みどり環境交付金事業

「白い森おぐに」 森林理解と体験活動の取り組みについて

山形県みどり環境交付金事業は、地域の実情に精通する市町村が、それぞれの地域課題に沿って、創意工夫を凝らした独自の森づくり活動等を図れる仕組みとして、交付金による支援を行うものです。

町では、この制度を活用して、森林や林業への理解、自然環境保全の意識の醸成を図ることなどを目的としたさまざまな事業を展開しています。ここでは、今年度の取り組みを紹介します。

森から拓く次代の生業づくり事業

【林業機械操作技術研修】

町民を対象に刈払機やチェーンソーに関する安全衛生教育研修を行いました。機械操作技術の向上と安全な使用方法について学ぶことで、町内の森林整備の促進につながるものと期待されています。



高収入品目植樹植栽事業

【高収入樹木植栽事業】

ウルシやキハダ、クロモジなど高収入が期待できる広葉樹を活用した産業化の可能性について、町民や生産団体に向けて講演会を開催しました。

【ウルシ等広葉樹植栽事業】

スギよりも早いサイクルで効率よく収入が得られる広葉樹を検証するため、町民とともに植栽事業を実施しました。

森林セラピー推進事業

【環境整備】

森林セラピー基地「ブナの森温身平」の機能と景観を保ち、訪れるかたがたが快適に森林セラピーを楽しめるよう、セラピーロードの環境整備を行いました。



森林資源活用事業

【たい肥化事業】

森林内の落ち葉や土を活用して、家庭から出る生ごみを良質なたい肥にしています。化学肥料を使わずたい肥だけで育てた野菜は、町内の保育園で給食として提供されています。



白い森づくり体験事業

【植林・森林体験学習】

町内小学生の親子を対象に、林業や森林の役割を学んだほか、実際に植林体験を行いました。木工クラフトにより、樹種毎の特性について理解を高めることができました。



生涯学習講座開設事業

【白い森子ども体験教室】

小学生を対象に、町内に生息する生物の観察や森林散策を通じて、森林環境やさまざまな動植物の特徴と役割について学びました。



◀森の学校「チョウセンアカシジミ観察会・トネリコの植樹」



▲森の学校「English Adventure」
◀森の学校「ブナの森の生き物探検隊」

募集

町営住宅入居者募集

①町営住宅小坂町団地

3DK 2戸(3・4階)

■家賃 所得と家族構成による

■その他 所得制限あり

②町営住宅あけぼの高齢者団地

1DK 1戸(1階)

1LDK 1戸(1階)

■家賃 所得と家族構成による

■対象

▽世帯所得が21万4千円以下

で住宅に困っているかた

▽60歳以上で自立した生活を

送ることができるかた。1

LDKの場合は、同居する

かたが配偶者または60歳以

上の親族であること

③小坂町勤労者住宅

2DK 1戸(3階)

■家賃 38000円

■対象 町内事業所にお勤めのかた

①②③共通

◎敷金 家賃の3カ月分

◎募集期限 3月11日(月)

◎入居時期 3月下旬以降

◎問合先 地域整備課建設管

理室(☎62・2431)へ

奨学金の貸与を受けている

若者の本町回帰を支援します

町では、若者の本町回帰・

定住を促進するため、山形県

と連携して、奨学金の貸与を

受けている大学生等に対し、

奨学金の返還支援事業を実施

しています。

■対象者

次の項目を全て満たすかた

①県内に居住し、県内の高

等学校等を今年度卒業見込

みのかた、または既に卒業

したかた②国内の大学等に

平成31年度に進学予定のか

た、または在学中のかた③

日本学生支援機構の第一種

または第二種奨学金の貸与

を受けているかた、または

受ける予定であるかた

■助成内容

大学等を卒業後、6カ月以

内に県内に居住して県内企

業に就業し、かつ3年以上

居住、就業を続けた場合に

最大で124万8千円の助

成が受けられます。

※なお、この他にも諸条件が

ありますので、応募の際に

ご確認ください。

■応募期間

平成31年4月26日(金)まで

■問合・応募先

総務企画課政策企画担当

(☎62・2264)へ

お知らせ

見つけよう、君の未来！
やまがたで学ぼうフェア

■日時 3月9日(土)

10時～16時

■場所 イオンモール天童

■内容 県内にある大学・短

期大学・専門学校など34校

を一堂に紹介します。

■その他 申込不要、入場無料

■問合先 大学コンソーシ

アムやまがた(☎023・

628・4842)へ

特定(産業別)最低賃金が
改正されました

■特定最低賃金(時間額)

一般産業用機械・装置等製

造業837円、電気機械器

具等製造業821円、自動

車・同附属品製造業836

円、自動車整備業(整備に

携わる者に限る)840円

■効力発生日

平成30年12月25日

■問合先

山形労働局(☎023・

624・8224)へ

自動車の検査・登録手続きは
お早めに

例年、年度末は自動車の検

査や登録手続きが集中し、窓

口が大変混み合います。

自動車の継続検査(車検)

や、移転登録(名義変更)、

未梢登録等の登録手続きは、

お早めにお済ませください。

登録手続きに必要な書類等の

案内は、山形運輸支局ホーム

ページのご利用が便利です。

■ヘルプデスク(手続き案内)

山形運輸支局(☎050・

5540・2013)へ

※案内時間は8時30分から17
時までです。(自動音声は
24時間ご利用になれます)

3月の 保健カレンダー

1. 各健診の日程等

■4カ月児健診

- ・期 日 3月22日(金)
- ・受付時間 13:10~13:20
- ・対 象 平成30年11月生まれ

■1歳児健診

- ・期 日 3月22日(金)
- ・受付時間 13:00~13:10
- ・対 象 平成30年3月生まれ

■1歳6カ月児健診

- ・期 日 3月8日(金)
- ・受付時間 12:50~13:05
- ・対 象 平成29年7月、8月、9月生まれ

2. 場 所 健康管理センター

3. その他

母子健康手帳を持参ください。

4. 問合先 健康管理センター (61-1000)へ

子育て支援センターから

■3月の広場日程

広場名称	曜日	時間	申込
なかよし広場	月～金 (平日のみ)	9：30～11：30・13：00～15：30 (水・金は午後のみ)	不要
	3月22日からお休みになります。 平成31年度は4月4日(木)からスタートします。		

■対象者 なかよし広場 就学前のお子さんとお家のかた

■その他 平日はいつでも子育て相談に応じています。また、白百合保育園(水曜午前)、すみれ保育園(金曜午前)でも同様の場所を設けています。詳細は各保育園にお問い合わせください。

■問合先 子育て支援センター(おぐに保育園内 ☎62-2330)・白百合保育園(☎62-2436)・すみれ保育園(☎62-5284)

休日当番担当歯科医のお知らせ

3月3日(日)	米沢 平間歯科医院	0238-23-8184
3月10日(日)	長井 斎藤歯科医院	0238-88-1827
3月17日(日)	高畠 八木歯科医院	0238-52-0117
3月21日(木)	米沢 やまざき歯科医院	0238-21-6480
3月24日(日)	川西 ふなやま歯科医院	0238-42-3057
3月31日(日)	米沢 村山歯科医院	0238-23-8640

求 人 情 報

右の表は2月19日現在でハローワークへ登録された求人のうち、小国町をおもな就業先としている求人情報です。既に雇用が確定している場合もありますので、ご了承ください。

求人情報の詳細については、ハローワーク長井(☎84-8609)へ。

今月の納税 2019.3

3月期の税金等の口座振替は、次のとおりです。振替日の前日まで、指定の口座に入金してください。

●3月26日(火) 水道料

●4月1日(月) 国民健康保険税・後期高齢者保険料、介護保険料、下水道料、簡易水道料、住宅使用料、保育料、児童福祉使用料

■問合先

町民税務課税政管理室
(62-2403)へ

事業所名	職 種	求人数	勤 務 時 間
おぐに白い森(株)	(請) 町営バス運転業務、清掃員(小国町立病院)、施設諸種管理員(小国町立病院)、調理員	各1人	8:30~17:15他
特定非営利活動法人まんまる	支援員	1人	8:30~17:00
(有)東部開発	農作業員、(臨) 農作業員	各1人	8:00~17:00
(株)キューアドリーム	介護職員、介護職員(有資格者)	各1人	6:00~15:00他
安部工業(株)	現場監督員、運転手、型枠大工	計5人	8:00~17:00
(株)サンコーポレーション	ホールスタッフ	計4人	8:30~17:00他
医療法人社団緑愛会満天の家	看護師	1人	8:30~17:30
ひさご電材(株)小国工場	電線のアッセンブリーおよび検査	1人	8:30~17:30
(株)山芳工務店	電気設備工(見習い)	3人	9:00~18:00
(有)横川自動車整備工場	自動車整備工	1人	8:30~17:30
(株)コメリ	店舗運営職・幹部候補	2人	8:45~17:45他
(有)小国技研	ボーリング洗浄工および作業管理補助	4人	8:00~17:00
長井郵便局(日本郵便(株)郵便事業総本部)	郵便物・小包、配達・集荷	2人	8:00~16:45他
(有)中央清掃	運転手および作業員	1人	8:30~17:00
美森ファーム(株)	事務員	1人	9:00~16:00他
(株)エルタス東北山形営業所	寮のパート勤務員	1人	9:00~17:00他

※先月号掲載分以降に新規で登録された求人掲載しています。
※町ホームページに求人情報を掲載しています。

3月の あいべイベント 「MIXCUPフットサル大会」



- 日 時 3月24日(日) 9:00開会式
- 対象者 中学生以上
- 申込期限 3月19日(火)19:00監督会議まで
- 参加費 1人500円（保険込）

「グラウンドゴルフ教室」

- 日 時 3月12日(火)10:00～
- 対象者 どなたでも
- 持ち物 室内シューズ、飲み物
- 申込期限 3月9日(土)
- 参加費 無料

「小学生春休みスポーツ教室」

- 期 日 3月26日(火)・28日(木)・29日(金)・30日(土)
- 時 間 9:30～
- 場 所 町民総合体育館
- 対象者 小学生
- 持ち物 室内シューズ、飲み物
- 申込期限 3月22日(金)
- 参加費 1人100円/回（保険料込）

■申込・問合先
(☎62-5808)

おぐにYui
スポーツクラブ

相 談

▽消費者相談

- 日 時 3月23日(土)
10:00～12:00
- 場 所 役場
- 対応者 司法書士 舟山健蔵氏
- その他 事前に申込みが必要です。
- 申込・問合先 町民税務課町民生活担当へ

平成31年度くりえいと工房 再生品提供について

千代田クリーンセンターくりえいと工房では、廃棄物として搬入された自転車や家具を修理再生し、展示及び提供を行っています。

■提供品

自転車10台、家具類5点（1回毎予定数）

■応募方法

備え付けの申込用紙により応募。複数申込みがあった場合、抽選により当選者を決定します。

■時 間 午前9時から午後4時まで

■料 金 無料

	展示期間	公開抽選 ※午前10時	引取期限
第1回	4月3日(水) ～5月4日(土)	5月8日(水)	6月1日(土)
第2回	6月5日(水) ～7月6日(土)	7月9日(火)	7月27日(土)
第3回	8月7日(水) ～9月7日(土)	9月10日(火)	9月28日(土)
第4回	10月2日(水) ～12月7日(土)	12月10日(火)	12月28日(土)

■問合先 千代田クリーンセンター
(☎0238-57-4004) へ

総 合 セ ン タ ー 図 書 室 か ら

～新着図書～

- ◇平成くん、さようなら
- ◇針と糸
- ◇昨日がなければ明日もない
- ◇日傘を差す女
- ◇ポンコツ武将列伝

休館日 毎週月曜日・祝日

古 市 憲 寿
小 川 糸
宮 部 み ゆ き
伊 集 院 静
長谷川ヨシテル

～訂正とおわび～

先月号特集7ページでご紹介した東部地区の「お楽しみ会」に関する表記に誤解を招く表現がありました。

(誤)「一方、東部地区では、根本俊輔隊員が水源の郷交流館ほたるを拠点にして、地域のかたがたと連携・協力しながら高齢者のかたがたを対象にした『お楽しみ会』を開催しています。」

(正)「一方、東部地区では、渡部八江さん（叶水）が水源の郷交流館などで開催している『お楽しみ会』に、根本俊輔隊員が参加・協力しています。」

訂正し、おわびいたします。



●小国町役場 ☎62-2111(代)fax62-5464
 ●行政管理室・管財危機管理室 ☎62-2112 ●企画財政室 ☎62-2264 ●会計室 ☎62-2406
 ●住民窓口担当・町民生活担当 ☎62-2260 ●国保医療担当 ☎62-2261 ●税政管理室 ☎62-2403
 ●白い森ブランド戦略室・移住定住促進室 ☎87-0821 ●商工観光室 ☎62-2416 ●農林振興室 ☎62-2408
 ●建設管理室 ☎62-2431 ●建設技術室 ☎62-2432 ●議会事務局 ☎62-2448



戸籍のまど

(1 月 届 出 分)

誕生おめでとうございます。

岩井 沢 古 川 涼 (孝 則
沙 綾 香

結婚おめでとうございます。

(石 滝 今 哲 也
南 陽 市 神 野 智 美

おくやみ申し上げます。

石 町	滝 原	齋 小	藤 嶋	三 郎	(85)
小国小坂町	阿 部	ミ ヤ	都 子	(85)	
針 生	山 口	勝 治	(88)		
兵 庫 館	後 藤	く に	(75)		
小 渡	高 橋	重 一	(93)		
岩 井 沢	渡 部	惣 吉	(77)		
黒 沢	保 科	充	(75)		
小 国 町	白 川	久 子	(78)		
叶 水	水 島	ミ ヤ	(78)		
長 沢	安 部	勝 幸	(94)		
田 沢 頭	石 垣	正 憲	(74)		
町 原 塚	原 三	子	(66)		
舟 渡	今 新	一 郎	(93)		
町 原 秋	保 マ	ス	(70)		
小 国 町	木 村	キ ヨ	(88)		
			(93)		

※この欄に掲載を希望しないかたは、届出の際にお申し出ください。

人口のうごき (平成31年1月31日現在)

人口 男・・・3,778人(－10)
 女・・・3,820人(－4)
 計・・・7,598人(－14)
 世帯数 3,071世帯(－5)

編集後記

今年は、昨年より積雪が少なく冬になりまし。最近、暖かい日も多くなり、道路脇に土が見え、小国の春の訪れを感じています。暖かくなつてくると気になるのが花粉ですね。各種情報をみると、昨年は飛散量が多かったようですが、今年は昨年に比べると少ないものの、やはり一定量の花粉が飛散します。花粉症のかたにはつらい時期になります。春の訪れを感じながらこの季節を楽しみたいものです。(斎藤)

仕事

vol.10

図鑑

グローバルウェーハズ・ジャパン株式会社小国結晶センター

代表者 センター長 大野 直樹
 従業員数 90人
 所在地 小国町大字小国町378番地
 事業概要 個別半導体素子用小口径シリコン単結晶の製造・販売

グローバルウェーハズ・ジャパン(株)小国結晶センターの半導体製造課で勤務する入社2年目の齋藤海斗さん(尻無沢)。半導体は、パソコンやスマートフォン、自動車や新幹線などあらゆる電子機器に組み込まれています。齋藤さんは、その材料となるシリコン単結晶の製造を担当しています。多結晶シリコンを溶解して専用装置で引き上げることで単結晶の塊ができます。齋藤さんは、引上装置等の監視や水温・水圧等の管理、製品製造前後の炉内の清掃などを行っています。

齋藤さんは、「入社前は、シリコン単結晶がどんなものかも分かりませんでした。製品の種類や重量で装置の条件なども変わり、経験がものを言う仕事だと感じています。毎日、優しく丁寧に指導してくださる先輩方から多くのことを学びながら、さらに自分の知識・技術に磨きをかけて、後輩が入ってきた時に私が教わったことを伝え、指導していけるような存在になればと思っています。」と話してくださいました。

グローバルウェーハズ・ジャパン(株)は、台湾のグローバルウェーハズの子会社で、電子機器に組み込まれる半導体素子用シリコンウェーハを製造しています。また、半導体シリコン事業の生産規模や製品ラインナップではグループの中核を担っており、同社の半導体用シリコンウェーハのシェアは世界3位(17%)となっています。同社は、旧東芝セラミックス時代を含め40年以上にわたって、最先端半導体材料メーカーとして、卓越した製品とたゆみない技術革新を行いながら、高い品質の製品を小国から全世界へと供給しています。



▲シリコン単結晶の引上の状態を確認する齋藤海斗さん

無言の語り部たちⅡ

その⑪

「大宮塔」(間瀬)

国道113号沿い沼沢地区内の間瀬パーキングの一角に「大宮塔(塔)」と彫られた碑があります。これは、間瀬集落にあった大宮講という講中で建てた石碑です。



▲間瀬パーキングに地区内の石碑がまとめられている

大宮講とは、「婦人達の安産子育てを願う集まりで、昔は一定の期日を定めておき、当日は早朝当番の家に集まる。朝に当屋の御馳走である餅を食べ、昼食を軽くとり、夕食は個人負担で馳走をつくり、1日中楽しく過ごす若い婦人たちの、いわば慰安・社交の場であった」のです(『小国の信仰』より)。

地区のかたの話によると、以前は地区内の小高い丘の本松の下にあったそうですが、集落の人数が減少したため、地区内の碑をまとめて現在の場所に移動したそうです。

また、この碑について、「昔は、毎年8月18日に、各家から重箱なんかを持ち寄って碑の前に集まってお参りして、お祭りしてたな。講中には、



▲間瀬パーキングにある大宮塔

私は出たことないけど、母親が決まった宿に行って、女性同士飲んだり食べたりして、何かしていたことは覚えてる。今、出産は病院でするけれども、昔は全部家でしてたからね。だから神様にすがるように祈っていた。」と話してくださいました。

町内ほぼ全域が山間地域にある本町においては、各地区から医者がある地区へ出向くのも多くの苦労がありました。

また、死産、流産、難産といったことが数多くあり、元気な赤ちゃんを産み、育て上

げることが今以上に大変だった時代には、安産と子育ての神である「大宮子易両神社」に願い、各地区で女性たちが講をつくっていたのです。この講は、婦人たちが集まり、さまざまな情報交換をしたり、食事を楽しんだりして過ごす憩いの場でもあったようです。

女性たちは自らの体と生まれてくる子ども、そして今いる子どもたちの安全と健やかな成長を、神にもすがる思いで、この碑に祈りを捧げながら我が子の成長を支え、家庭を守ってきたのです。